

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第143期 期末報告書

2023年1月1日～2023年12月31日 証券コード:3405

CONTENTS

- 01 | 株主の皆様へ・決算ハイライト
- 05 | クラレグループトピックス
- 06 | クラレのSustainability
- 09 | お知らせ
- 10 | 株式情報
- 巻末 | 会社概要

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災地の皆様にお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より祈念しております。

2023年度を振り返ると、欧州では金融引き締め継続による経済活動の停滞、中国では不動産市場低迷などによる成長の鈍化、加えて各地における地政学的な緊張などにより、年後半にかけて景気の減速傾向が強まりました。かかる環境下、当社グループにおいても主要製品で市況悪化の影響を受けることとなり、売上高は2期連続で過去最高を更新したものの、利益は前期を下回る結果となりました。

2024年度は5ヶ年の中期経営計画「PASSION 2026」の3年目となります。これまでの2年間の成果や経営環境の変化を踏まえ、今後3年間に実施すべきアクションを加速していきます。主要な施策としては、成長投資としてアジアでの〈エバル〉新プラントの投資判断を下すとともに、今年立ち上がる米国での活性炭製造設備、光学用ポパールフィルム生産設備、水溶性ポパールフィルム ポーランド新工場などを早期に安定稼働させ、収益拡大につなげます。また、縮小・

撤退事業の見極めも進めていく所存です。

これらを踏まえた2024年度の業績計画については、売上高8,300億円、営業利益830億円、経常利益770億円、親会社株主に帰属する当期純利益470億円としております。

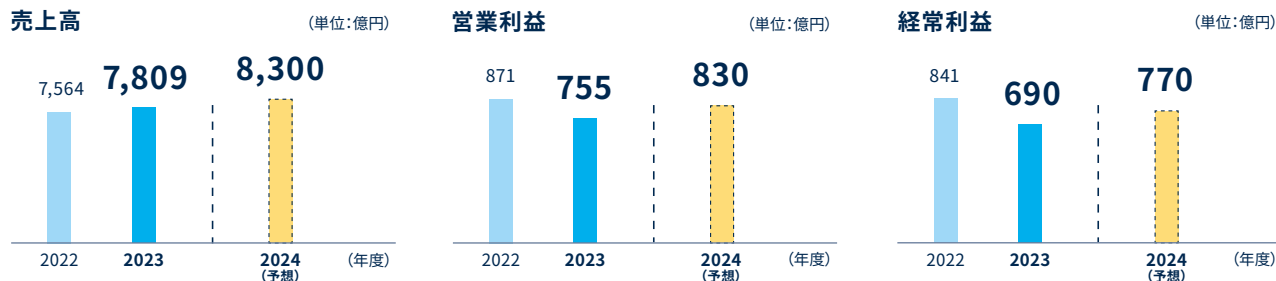
当社は株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、中期経営計画「PASSION 2026」(2022年度～2026年度)期間中においては、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、かつ1株につき年間配当金40円以上を基本方針としています。

2023年度は1株当たり年間配当金50円(中間25円、期末25円)とさせていただきます。2024年度の配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益470億円を前提に、1株当たり年間配当金50円(中間25円、期末25円)を予定しております。

引き続き、クラレグループの企業価値向上に向けて、事業活動におけるキャッシュ創出力の強化に努めていくとともに、成長に向けた戦略的な資源投入と株主還元の充実を図ってまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算ハイライト

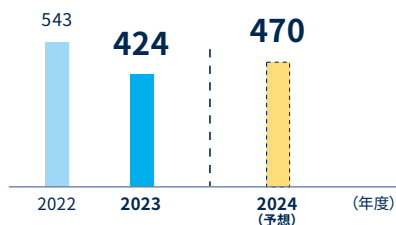


代表取締役社長

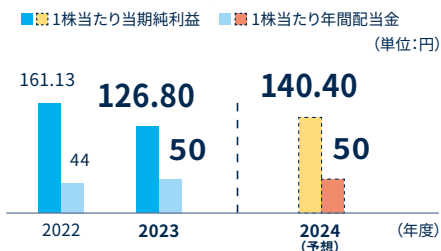
川原 仁



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:億円)



1株当たり当期純利益／1株当たり年間配当金



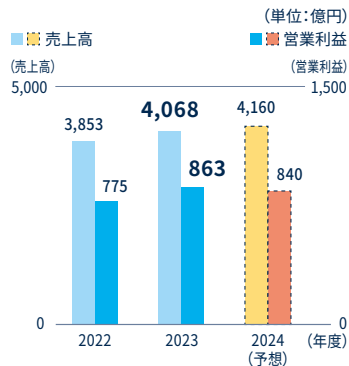
● 各種前提

- ・2022年度:米ドル132円、ユーロ138円、国産ナフサ75千円/kl
- ・2023年度:米ドル141円、ユーロ152円、国産ナフサ68千円/kl
- ・2024年度:米ドル145円、ユーロ160円、国産ナフサ75千円/kl

セグメント別の概況

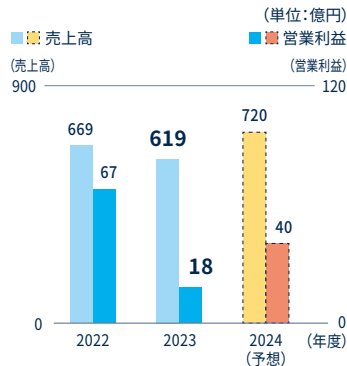
ビニルアセテート

ポパール樹脂は、高付加価値品へのシフトを進めました。一方で、欧米を中心に需要が減退し、販売数量は減少しました。光学用ポパールフィルムは、液晶パネルの在庫調整が一巡し、段階的に出荷が回復しました。高性能中間膜は、PVBフィルムの建築用途で欧州を中心に需要減退が見られたものの、自動車用途は堅調に推移しました。水溶性ポパールフィルムは、引き続きインフレによる買い控えなどの影響を受けたものの、年後半には回復の兆しが見られました。EVOH樹脂(クパール)は、自動車用途は堅調に推移したものの、食品包装用途は年後半に一時的な需要の落ち込みがあり、販売数量が減少しました。



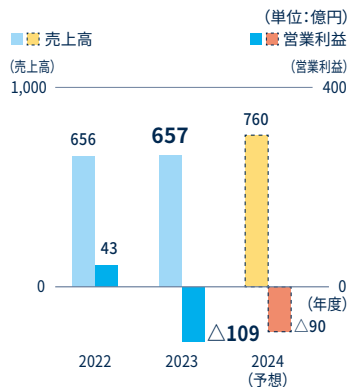
繊維

人工皮革(クラリーノ)は、自動車用途やスポーツ用途で回復が進みましたが、ラグジュアリー用途などで需要減退の影響を受け、出荷が減少しました。繊維資材は、ビニロンは欧州向けが低調でしたが、米国などで自動車用途に回復の兆しが見られました。また、(ペクトラン)は輸出を中心に堅調に推移しました。生活資材は、(クラフレックス)で外食産業の需要が低調でした。



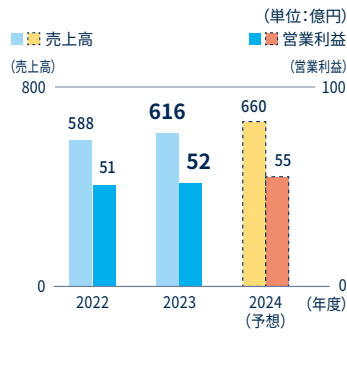
イソブレン

イソブレンケミカル、エラストマーは、需要低迷に加え、競争激化の影響を受けました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車用途は回復基調にあるものの、電気・電子用途はデバイスの需要回復が遅れました。



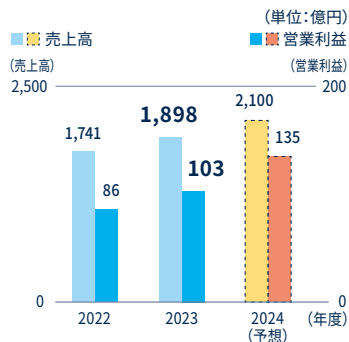
トレーディング

繊維関連事業は、資材分野は苦戦しましたが、スポーツ衣料用途が好調に推移しました。樹脂・化成成品関連事業は、年後半にアジア市場での販売が拡大しました。



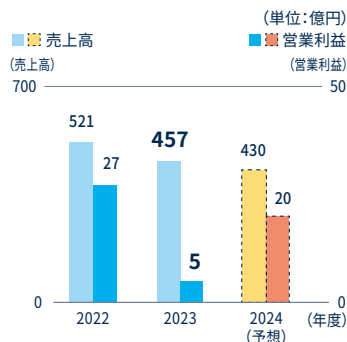
機能材料

メタクリルは、電気・電子用途でのデバイスの需要回復の遅れに加え、原燃料価格上昇の影響を受けました。メディカルは、審美治療用歯科材料の販売が欧米を中心に好調に推移しました。環境ソリューションは、欧州は景気減速の影響を受けたものの、北米の飲料水用途などで需要が増え、活性炭の販売が堅調に推移しました。



その他

その他事業は、減収減益となりました。



財務情報

連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
売上高	7,809	7,564
営業利益	755	871
経常利益	690	841
親会社株主に帰属する当期純利益	424	543
●各種前提		
円/米ドル	141	132
円/ユーロ	152	138
国産ナフサ価格(千円/kl)	68	75

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,293	517
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 632	△ 686
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 650	△ 121

*1:2023年1月1日～2023年12月31日

*2:2022年1月1日～2022年12月31日

連結貸借対照表(要約)

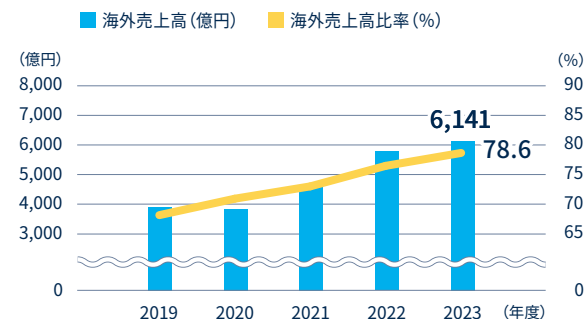
(単位:億円)

	当期*3	前期*4
資産の部		
流動資産	5,517	5,339
固定資産	7,028	6,876
資産合計	12,545	12,215
負債の部		
流動負債	2,006	2,213
固定負債	3,178	3,317
負債合計	5,183	5,530
純資産の部		
株主資本	5,767	5,503
その他の包括利益累計額	1,375	965
その他	219	218
純資産合計	7,362	6,685
負債および純資産合計	12,545	12,215

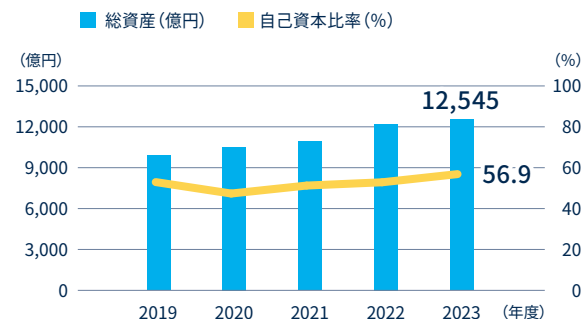
*3:2023年12月31日現在

*4:2022年12月31日現在

海外売上高推移



総資産・自己資本比率



TOPICS

2023年8月

米国と欧州におけるEVOH樹脂〈エバル〉 生産能力増強を決定

世界的に需要が増加しているEVOH樹脂〈エバル〉の米国および欧州の既存拠点における生産能力増強計画を決定しました。米国、欧州拠点にて2024年に計5,000トン/年、2026年にはさらに計5,000トン/年、合計10,000トン/年の能力増強により、グローバルの生産能力は現在の103,000トン/年から113,000トン/年に拡大します。〈エバル〉はその優れたガスバリア性により食品の鮮度をより長く保つことができることから、食品包装用途に広く使われています。フードロス削減に加え、近年はそのリサイクル性からサーキュラーエコノミーに貢献する素材として評価されており、さらなる需要の伸びが見込まれています。

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2023/230809>



2023年8月

液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉、グラフィートデザインの ゴルフクラブシャフト「秩父 式」に採用

当社の液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉が、2023年9月に株式会社グラフィートデザインから発売されたプレミアムラインのゴルフクラブシャフト※「秩父 式(セカンド)」に採用されました。〈ベクトラン〉のもつ耐衝撃性、振動減衰性、高強度といった特長が、スイング中の余分なしなりを軽減、さらに各クラブに適した挙動を可能にすると評価され、同製品に採用されることとなりました。

※シャフト:ゴルフクラブのヘッドとグリップをつなぐ棒状の部分。



詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2023/230830>



2023年10月

再生医療用の細胞培養に向けた PVAハイドロゲルマイクロキャリアを開発

再生医療用の細胞培養に向けたPVAハイドロゲルマイクロキャリア※を開発し、2024年より国内および米国をはじめとする海外で発売しました。本マイクロキャリアを細胞培養に使用するバイオリアクターに投入して足場材料とすることで、表面に細胞が付着・増殖し、大量の細胞を効率的に剥離回収できます。バイオリアクターの中で攪拌しても破損しにくく、安全性や培養効率の高いマイクロキャリアです。



※マイクロキャリア:微小な細胞固定化担体。培養液の中で表面に細胞を接着させることで、3次元的に培養するための材料。

Photo: PVAハイドロゲルマイクロキャリア上の培養細胞の顕微鏡画像
詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2023/231006>



2023年12月

歯科材料の生産能力増強を決定

クラレノリタケデンタル株式会社は、歯科材料の事業拡大を加速するため、三好工場(愛知県みよし市)におけるジルコニア製品、陶材などの無機系歯科材料の生産能力増強を決定しました。ジルコニア製品、陶材は、高強度、高審美性、高品質を強みとしており、特に近年では診療時間の短時間化を実現するジルコニアブロックの需要が高まり、北米を中心に売上高を伸ばしています。

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2023/231218>



2023年1-6月のクラレグループトピックス

- ・水処理用中空糸膜モジュール、「第55回 市村産業賞 功績賞」を受賞
- ・「ランドセルは海を越えて」20回目の旅立ちを準備
- ・タイの新プラントが始働、現地でオープニングセレモニーを開催
- ・環境対応型のメタクリル樹脂板〈コモグラス〉REを開発
- ・効率化されたワークフローを実現する〈カナタ ジルコニア ONE〉を新発売

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news>



クラレの Sustainability サステナビリティ VOL.5

～自然環境と生活環境の向上を目指して～



サステナビリティウェブサイトは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/csr>

当社はサステナビリティ長期ビジョンを策定し、サステナビリティを積極的に推進することを掲げました。このパートでは「イノベーション創出への挑戦」と生活環境の向上に貢献する製品の具体例として「合わせガラス用中間膜」をご紹介します。

イノベーション創出への挑戦

クラレグループは、中期経営計画「PASSION 2026」の「3つの挑戦」の1つに「ネットワーキングから始めるイノベーション」を掲げています。この挑戦を推進するため、当社は2022年1月にイノベーションネットワーキングセンター（INC）を設立しました。INCを核に、社内内外のリソースを結びつけることで、イノベーション創出を目指しています。

■イノベーションネットワーキングセンター（INC）って？

INCは、各事業部、各本部、そして顧客が主役となってイノベーションを生み出していけるように、クラレグループのイノベーションのアクセラレーターの役割を担い、全社・全員参加型の活動を推進しています。多様なバックグラウンドをもつINCのメンバーと各部署を代表するアンバサダーがグローバルに連携し、クラレグループの多様な人材、ユニークな技術力、これまでに培った顧客との関係性や市場へのアプローチ手法などを活用し、中長期的な視点で新たなビジネス機会の創出に取り組んでいます。

■バックキャスト型の研究開発

研究開発・新事業開発の中核的存在として活動する研究開発本部では、生活者の視点で20～30年後の将来のありたい社会・暮らしを考え、そこからバックキャストしてより挑戦的な研究開発テーマを設定することで、新たな要素を取り込み、これまでの研究開発領域に限定されない、新分野の開拓を目指しています。既存事業の延長線上にない、将来のクラレグループが狙うべき市場領域と研究開発のロードマップを中長期視点で描き、短期的にはフェイル・ファスト^{*1}で取り組むことを目指しています。

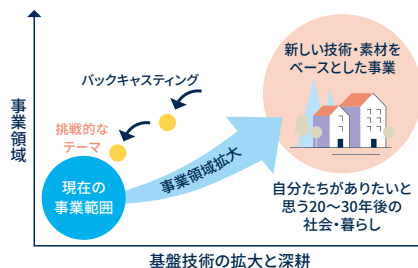
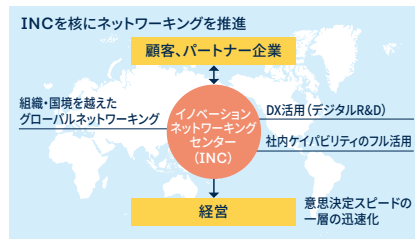
■研究開発本部とイノベーションネットワーキングセンター（INC）の連携

持続的にイノベーションを起こしていくには、研究開発本部の独自技術をベースとした素材の価値を開発初期段階で市場・顧客に問い、PoC（Proof of Concept: 概念実証）を実施していくことが重要です。研究開発テーマの各責任者・担当者はINCのセグメントチーム^{*2}と連携してマーケティングを進め、市場を深く理解した上で開発を進めています。

2022年より、研究開発本部とINCのメンバーが集うグローバルコミュニケーションイベントのPitch Day^{*3}を定期的に開催し、全社的なイノベーションプロセス構築と文化醸成、ネットワーキング・コミュニケーションの活性化を図っています。

また事業部横断のマーケティング活動として、これまでの2年間、「自動車」「農業」「紙・包装材」などの産業領域に、サステナブル原料、リサイクルポリマー材料、金属代替軽量化技術・材料といったクラレグループが強みを発揮できる重点領域を掛け合わせて、イノベーションの機会を探ってきました。現在は20を超えるビジネステーマを特定して、戦略的にリソース配分を行っています。

^{*1} 早く失敗して、そこから学びを得ることで成功に近づいていく考え ^{*2} 「自動車」「紙・包装材」「農業」「スポーツ・アウトドア」「建築・建設」「生活・パーソナルケア」の6つを戦略領域としたセグメントチーム ^{*3} 研究開発本部のシーズ開発テーマを研究員自らがプレゼンテーションし、INCメンバーの質問やフィードバックを通じて新たな可能性に気づくことで、フェイル・ファストのプロセスを加速していくイベント





キーパーソン
に聞く



生活環境の向上に寄与する
クラレの製品

合わせガラス用中間膜

ガラスの機能性を向上し、 生活の安全・安心・快適に貢献

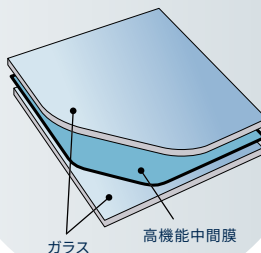
合わせガラス用中間膜は技術革新が続く自動車や建築分野において安全性、デザインの自由度が支持され需要が拡大しています。今回、機能性に優れた中間膜製品であるPVBフィルム〈トロシフォル〉および特殊アイオノマーシート〈セントリグラス〉を展開する高機能中間膜事業部のコックス事業部長に、その特徴や将来の展望について話を聞きました。

高機能中間膜事業部 事業部長 スティーヴン コックス

● 合わせガラス用中間膜とは どのようなものですか。

合わせガラスとは、ガラスとガラスの間に樹脂フィルムを挟み圧着したガラスです。この樹脂フィルムを中間膜といい、用いる中間膜によって、安全性やセキュリティなど、ガラスにさまざまな機能性をもたせることができます。なお、自動車のフロントガラスには合わせガラスの使用が義務付けられており、事故の際、強い衝撃を受けても高い接着性を発揮して、ガラスは割れても飛び散らず、ドライバーを危険から守っています。

合わせガラスのイメージ



自動車用安全ガラス製品

● 主な用途について教えてください。

クラレの中間膜にはPVBフィルム〈トロシフォル〉と特殊アイオノマーシート〈セントリグラス〉があり、建築および自動車の合わせガラスに採用されています。強度だけではなく、遮音性や色合い、透明性、UV透過率など、ガラスに機能や個性をもたせることができることから、ガラスの意匠性を引き出す素材として、ビルファサードやカーテンウォール、ガラス展望台など、人々を魅了する建築プロジェクトにも数多く採用されています。また、自動車用途では、主にドライバーの安全性向上のために使用されていますが、最近では、遮音効果がある銘柄や、フロントガラスに情報が投影される「ヘッドアップディスプレイ」に対応した銘柄など、高機能な製品も増えており、活躍の場が広がっています。



〈セントリグラス〉が採用された
Square One Rotunda (カナダ)



解決したい課題

—
ガラスの安全性と
意匠性の両立



クラレの答え

—
高機能中間膜で
生活の安全と安心
に貢献

● 中期経営計画「PASSION 2026」における戦略について教えてください。

私たちの中間膜は、欧州、米国、韓国の各生産拠点から世界中のお客さまへお届けしています。これまで、2018年には韓国の蔚山(ウルサン)で自動車用途向けの高機能遮音フィルムの新ラインを、2019年にはチェコのホレシヨフで建築用途向けに〈セントリグラス〉の新ラインを稼働させ、生産能力の増強を図ってきました。「PASSION 2026」においては、この築き上げてきた強固な供給体制の強みを生かすとともに、新規開発品の立ち上げの加速を目指しています。自動車用途では、近年の先進運転支援システム(ADAS)の技術革新により今後ますます高度な光学精度がカメラに求められる中、フロントガラスの光学歪みを低減できる特殊PVBフィルム〈CamViera〉を開発するなど、最先端の技術提案を進めています。私たちはこれからもお客さまとの共創を通して、技術を発展させながら、人々の生活環境の向上に貢献していきます。

● 特殊アイオノマーシート〈セントリグラス〉について、もう少し詳しく教えてください。

〈セントリグラス〉は建築構造用の高剛性中間膜市場においてシェア70%を誇るクラレ独自の素材です。旺盛な需要とお客さまの期待や課題に応えるため、製品の安定供給性を高めるとともに、マーケティング強化を進めています。元々はフロリダのハリケーン対策として設計されたこともあり、一般的な合わせガラス用中間膜に比べ5倍の強度と100倍の硬度を誇り、優れた透明性や端部の封止が不要なオープンエッジ性能等も併せもつことから、世界各地の高層ビルなどをはじめ、著名な建築物、構造物への採用が進んでいます。米国フロリダ州には世界初となるギターの形をした、高さ約137メートルの一面ガラス張りのホテルがあります。フロリダではハリケーン対策が厳しく求められる中、〈セントリグラス〉が外装、内装のガラスに幅広く導入されたことで、印象的な美しさとともに、建物の丈夫さと機能性の両立を実現しました。他にも当社の製品が採用された世界中の注目すべきプロジェクトをウェブサイトで紹介しています。ぜひご覧ください。



〈セントリグラス〉が採用された
Seminole Hard Rock Hotel & Casino Hollywood (米国)



詳しくは右記QRよりご覧いただけます。

<https://www.trosifol.com/ja/プロジェクト>



株主優待制度のご案内

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社グループの事業や製品を知っていただき、当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として株主優待を実施しています。



オリジナルカタログギフト(基準日:2023年12月末)

2023年12月末の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に、保有期間に応じてカタログギフトを贈呈します。

2023年12月31日現在で対象となる株主様にはカタログを同封しております。

保有株式数	1,000株以上	
保有継続期間	3年未満	3年以上※
ご優待内容	オリジナルカタログギフト 3,000円 相当	オリジナルカタログギフト 10,000円 相当

※3年以上とは、同一株主番号で12月31日の株主名簿に、連続して4回、かつ1,000株以上の保有が記載または記録された株主様といたします。

カタログギフトには当社グループの製品を使用した商品や、大原美術館や倉敷国際ホテルなど当社関連施設の利用優待券、当社グループ国内拠点所在地の名産グルメなどを掲載しています。



商品画像はイメージです



クラレグループカレンダー(基準日:2024年6月末)

2024年6月末の株主名簿を対象として、2025年版オリジナルカレンダーをご希望の株主様にプレゼントします。2024年9月上旬頃、ハガキ等でご希望をおうかがいします。詳しくは次号クラレ通信をご覧ください。

株主様による寄付のご報告

2023年度の「社会貢献ギフト」国連WFP寄付コースへのお申し込みは、総額151万円となり、お申し込みいただいた皆様に代わり寄付させていただきました。たくさんのご賛同、誠にありがとうございました。

株式情報 (2023年12月31日現在)

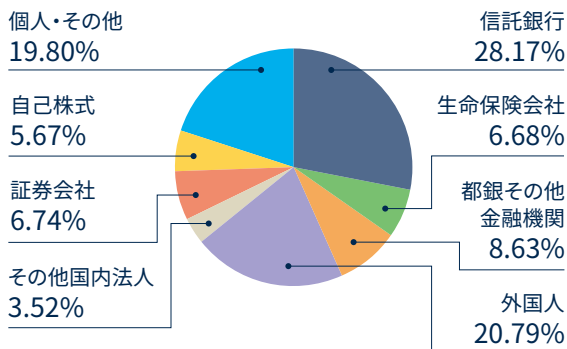
株式の状況

発行可能株式総数
1,000,000,000株

発行済株式の総数
354,863,603株 (自己株式20,107,257株を含む)

株主数
99,733名

株主構成 (持株比率)



投資家向けページのご案内



投資家情報

当社ウェブサイト内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレ 検索

株式メモ

証券コード 3405
上場証券取引所 東京
単元株式数 100株
事業年度 1月1日から12月31日
定時株主総会 毎年3月開催
期末配当基準日 12月31日
中間配当基準日 6月30日
公告の方法 電子公告
<https://www.kuraray.co.jp/>

(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(受付時間:土・日・祝祭日を除く9時~17時)

定時株主総会決議ご通知郵送廃止のお知らせ

2024年3月27日開催の第143回定時株主総会より、決議ご通知の書面での郵送を廃止させていただくことといたしました。

なお、決議ご通知は、当社ウェブサイト (<https://www.kuraray.co.jp/ir/stock/meeting>) に引き続き掲載することにより、ご案内させていただきます。

クラレは世界的な
ESG投資指数の
構成銘柄に
選定されています。



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



MSCI社による株式会社クラレの
MSCIインデックスへの組み入れ、
株式会社クラレによるMSCIのロゴ、
商標、サービスマークまたはイン
デックス名の使用は、MSCIまたは
その関係会社による株式会社クラレ
へのスポンサーシップ・宣伝・販売
促進を企図するものではありません。
MSCIインデックスはMSCIの独占的
財産であり、その名称、インデックス、
ロゴは、MSCI社およびその関連会社
の商標またはサービスマークです。

会社概要

社名

株式会社クラレ

英文社名

KURARAY CO., LTD.

設立

1926 (大正15) 年6月24日

資本金

890億円 (2023年12月31日現在)

本社所在地

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4

常盤橋タワー

TEL (03) 6701-1000 FAX (03) 6701-1005

ウェブサイト

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート

ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、

EVOH樹脂・フィルムの製造・販売

イソブレン

イソブレン系化学品、

ポリアミド樹脂の製造・販売

機能材料

メタクリル樹脂、メディカル関連製品、

炭素材の製造・販売、

水処理用高機能膜・システムの製造・販売

繊維

人工皮革、ピニロン、不織布、面ファスナー、

ポリエステル繊維の製造・販売

トレーディング

繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・販売

その他

エンジニアリング事業

役員 (2024年3月27日現在)

代表取締役社長	川原 仁
代表取締役・専務執行役員	多賀 敬治
取締役会長	伊藤 正明
取締役・専務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
取締役・常務執行役員	高井 信彦
取締役・常務執行役員	渡邊 知行
取締役 (社外取締役)	村田 啓子
取締役 (社外取締役)	田中 聡
取締役 (社外取締役)	井戸 清人
取締役 (社外取締役)	三上 直子
常勤監査役	早瀬 博章
常勤監査役	上原 直哉
監査役 (社外監査役)	永濱 光弘
監査役 (社外監査役)	谷津 朋美
監査役 (社外監査役)	小松 健次
常務執行役員	大村 章
常務執行役員	尾松 俊宏
常務執行役員	藤波 智
常務執行役員	池森 洋二
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	高野 浩一
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	坂本 和繁
執行役員	大福 幸一
執行役員	藤原 純一
執行役員	大井 秀雄
執行役員	下 浩幸
執行役員	中村 吉伸
執行役員	井出 章子
執行役員	高井 庸善
執行役員	クリスチャン ハーマンズ (Christian Herrmanns)
執行役員	スタンリー フクヤマ (Stanley Fukuyama)
執行役員	山口 里志
執行役員	難波 憲明

- ③ 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。
3.この冊子に記載の()を付した表記は、当社グループの商標または登録商標です。
4.この冊子に記載したQRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。